

千葉県立鶴舞看護専門学校 学校関係者評価実施報告

千葉県立鶴舞看護専門学校では、「令和2年度自己点検・自己評価結果概要」をもとに、学校関係者評価を実施したので、以下のとおり報告します。

1 実施年月日

令和3年11月11日（木）～令和4年1月21日（金）書面開催による。

2 学校関係者評価会議出席者

近隣教育機関、近隣保健医療施設、実習施設、有識者（非常勤講師）、看護職能団体、卒業生に評価を依頼しました。

3 実施内容

事業概要、自己点検評価の結果説明、今年度の取り組みを報告し、質疑応答や意見交換を行いました。

《今年度の運営方針》

- 1) 看護教員の育成と資質の向上を図る
- 2) 看護教育水準を高める
- 3) 魅力ある学校づくりを推進する
- 4) 適切な学校運営をめざす
- 5) 第5次カリキュラム改正及び運用に向けた検討を行う

4 学校関係者評価・意見

大項目ごとの評価の御意見は以下のとおりです。

大項目	主な御意見等
I 教育理念・教育目的	<ul style="list-style-type: none">・（次年度に向けて）対象の多様性・複雑性を理解することは大切であり、看護の世界では昔からジェンダー等で注目されている項目。今後は、マイノリティやダイバシティといった社会で表現されている多様性について、看護の中にどうとり入れていくかが課題のように思える。・ 人間性豊かで専門職業人（看護師）として社会に貢献できる人材の育成を是非引き続きお願いします。
II 教育目標	<ul style="list-style-type: none">・（次年度に向けて）多様な価値観を受け止めることは必要だが簡単ではない。・ 文章中「他職種と協働できる能力を養う」とあるが、他職種→多職種の方が良いかもしれない。また、「主体性を持った力を養う」は「主体性を養う」では？・ どのような看護師を育成したいのかが良く理解できる教育目標だと思いました。
III 教育課程	<ul style="list-style-type: none">・（次年度に向けて）多様性を理解する教科はどこに当てはまるのでしょうか。・ コロナでいたしかたない部分は理解できる。With コロナの実習・授業が今後のカギか・・・。・ 教員の準備のための時間確保は、在宅ワークの活用などに取り組む必要があるかもしれませんね。・ 教育目標の実現に向けた教育課程の編成になっていると思います。・ 先生方の時間的余裕が少ないことと実習施設との調整に苦慮されていることが感じ取れました。改善の方向にいけるように期待します。

IV 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価をするにあたり、貴校の教育活動・教育実践がもう少し見えるような工夫があると良いと思います。本来であれば取り組み等についてはご説明していただける部分だと思います。外からだとなかなか見えづらい部分もあるかと思います。 ・ 多忙を極める中、目的・目標の達成に向け、ご尽力いただいていることがよくわかりました。
V 経営管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価項目を増やすなど自己評価が適切になされています。
VI 入学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学生確保に向けた調査や分析などはどうなっていますか？ ・ しっかりと分析されて学生募集や広報活動等に活かされている様子が伺えます。 ・ 入学生の確保が難しい現状の中、改善が見られ努力の成果が出ていることは素晴らしいと思いました。辞退者数の推移はいかがでしょうか。
VII 卒業・就業・進学	<ul style="list-style-type: none"> ・ フィードバックが得られない。アンケートや里帰り day について情報がいただけると良いと思う。 ・ 学生時代の傾向を知っていれば配置先など配慮できる場合もある。 ・ 卒業生の就業先での評価から問題点をどのように考えているのか情報交換したい。 ・ 引き続き、社会で貢献できる人材育成をお願いします。 ・ 里帰り day など工夫されていて卒業生にとっても受け入れ施設にとっても心強いと思いました。 ・ 里帰り day のアンケート結果を見たいです。新型コロナ発生から2年を経て、この間の卒業生に就職してから何らかの違いがあるのか、教育への影響を調査できればと思います。
VIII 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワクチンの打ち手不足等の問題を学生さん達はどう感じどう受け止めたのでしょうか？現場に出なくても地域の問題を肌で感じることはできると思います。 ・ 引き続き連携をお願いいたします。
IX 研究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習不足の中、研究どころではなかったんだと思いますが、項目にあげている以上、対策は必要ですね。 ・ 就業先と学校で、看護職・看護学生の支援に関して共同研究できたら良いなと思います。 ・ コロナ禍でもできる、コロナ禍だからこそ考えられる研究を進めてください。学生が活躍できる分野・場面の設定など簡単なことではありませんがよろしくお願いします。
自由な御意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍においてご苦労が多かったと思います。本当にお疲れ様でした。 ○ ここ数年、学生の講義に向かう態度が良くなったと思います。 ○ 単位数は増加し全時間数は減少しています。基礎分野と専門分野でも増減があります。現代の看護学では仕方がないことなのでしょうね。 ○ コロナ禍とは言え、研修を縮小あるいは中止とすることがあり、教育現場は本当に大変な日々が続いておりお疲れ様です。実習の不足分を現場でどう補っていくのが次年度の最大の課題です。 ○ コロナ禍後には交流しながら取り組める仕掛けづくりができたらいいなと思います。私の方でも考えますので、アイデアができたらご相談させてください。 ○ 看護の現場はいつも忙しく、目の前のことに追われやすいことを理解しています。その中で、自分で時間を作り、身の回りの課題を研究的な視点で解決や充実させていく必要があります。学生時代から先生方のそのような姿勢に触れる機会があると良いと感じています。 ○ 真摯に看護基礎教育に携わってくださっている先生方に感謝し、先生方にとってより働きやすい職場となることを願っています。 ○ 自己点検結果から、教育にかかわる皆様の御苦心が伝わります。

5 終わりに

今後も、学校関係者評価会議を継続して開催し、学校外部からの評価をいただく機会を設けながら、学校活動全般に関する質の向上を図ってまいります。